

# 定例公安委員会の開催概要

定例公安委員会は、令和2年7月22日（水）に開催されました。

## 1 決裁事項

- ・ 令和2年第1回臨時会への出席者について
- ・ 令和2年度政策評価の結果について

## 2 報告事項

### (1) 令和2年6月中の苦情の取扱いについて

県警察から、令和2年6月中の苦情の取扱いに関する報告があった。  
苦情受理件数は、2件（公安委員会あて1件、警察あて1件）であり、いずれも「交通取締りに関するもの」であるとのことであった。

委員から、『最初の対応、言い方の影響が大きい。』『言動には十分気をつけていただきたい。』との発言があった。

### (2) 特殊詐欺被害防止に向けた新聞広告について

県警察から、特殊詐欺被害防止に向けた新聞広告に関する報告があった。  
特殊詐欺被害防止を図るため、秋田県金融機関防犯連合会と連携し、新聞広告を掲載するとのことであった。

委員から、『あらゆる機会を捉え、引き続き関係機関の協力を得て犯罪抑止のための広報を継続してもらいたい。』との発言があった。

### (3) 令和元年及び令和2年上半期の山岳遭難発生件数について

県警察から、令和元年及び令和2年上半期の山岳遭難発生件数に関する報告があった。

令和元年中の県内における山岳遭難発生状況は、前年より発生件数は17件、死者は4人、負傷者は5人、無事救出者は7人それぞれ増加したが、行方不明者は1人減少

した。

遭難者の目的別でみると、山菜採り等が44人と最も多い。

また、遭難者全体の約6割が70代以上であり、通信手段の使用ありは3割未満と全国平均を大きく下回っている。

山岳遭難防止対策として広報活動の更なる推進、登山計画書届出の推奨を行うとのことであった。

委員から、『これまでの発生状況を分析し、遭難の防止対策を徹底してもらいたい。』との発言があった。

(4) 令和2年上半期の子供・女性を対象とする性犯罪等の前兆事案の取扱状況について  
(暫定値)

県警察から、令和2年上半期の子供・女性を対象とする性犯罪等の前兆事案の取扱状況に関する報告があった。

認知件数は193件で、昨年同期に比べ32件(19.9%)増加した。

18歳未満の児童生徒が被害者となった事案のうち、行為者が判明した事案は40件と、前年より7件(14.9%)減少し、18歳以上の女性が被害となった事案のうち、行為者が判明した事案は57件と、前年より28件(96.6%)増加しているとのことであった。

委員から、『前兆事案の段階で押さえ込むことは重要であり、対応を徹底してもらいたい。』との発言があった。

(5) 令和元年中・令和2年上半期の行方不明者の取扱状況について

県警察から、令和元年中・令和2年上半期の行方不明者に関する報告があった。

令和元年中は確定値で、届出を受理した行方不明者は428人と、前年より38人(8.2%)減少した。

行方不明者の発見等で行方不明者届を解除した人数は422人であった。

令和2年上半期は暫定値で、届出を受理した行方不明者は210人と、前年同期比11人(5.5%)増加した。

行方不明者の発見等で行方不明者届を解除した人数は195人であった。

委員から、『早期発見には、スピード感、初動対応が重要である。あらゆる関係機関と連携し、様々な広報媒体を活用した発見活動に努めてもらいたい。』との発言があった。

(6) 児童福祉法違反被疑者の逮捕について

県警察から、児童福祉法違反被疑者の逮捕に関する報告があった。

秋田中央警察署は、平成31年3月頃、18歳に満たない児童であることを知りながら、みだらな行為をしたとして、7月18日、由利本荘市に居住する無職の男性（30歳）を通常逮捕したとのことであった。

委員から、『被害少年のフォロー、心のケアをしっかりと対応していただきたい。』との発言があった。

(7) 令和2年6月末の犯罪情勢について（暫定値）

県警察から、令和2年6月末の犯罪情勢に関する報告があった。

刑法犯については、認知件数は1,199件、検挙件数は819件、検挙人員は475人と、前年同期よりそれぞれ増加した。検挙率は68.3%と前年より上昇した。

重要犯罪については、認知件数は9件、検挙件数は10件、検挙人員は11人と、前年同期より認知件数が減少し、検挙件数と検挙人員が増加した。

重要窃盗犯については、認知件数は136件、検挙件数は111件、検挙人員は20人と、前年同期よりそれぞれ増加した。

窃盗犯については、認知件数は855件、検挙件数は605件、検挙人員は320人と、前年同期よりそれぞれ増加した。

また、刑法犯検挙人員に占める高齢者の割合は、全刑法犯で35.8%、うち窃盗犯が46.9%、手口別では万引きが57%と高率であるとのことであった。

委員から、『高齢者の犯罪が多く深刻な状況であると感じる。』『関係機関と連携した犯罪未然防止対策と情報交換をよろしく願う。』との発言があった。

(8) 身元確認に関する広報活動について

県警察から、身元確認に関する広報活動に関する報告があった。

令和2年8月1日から31日までの1ヶ月間、身元不明死者に関する情報提供を広く求めるため、県警ホームページ内の身元不明死者のページに直接アクセスできるQRコードを印刷した広報用ポスターを作成し、公共施設及び警察施設に掲示するとともに、各種広報媒体を活用した広報活動を実施予定とのことであった。

委員から、『一人でも多く身元確認出来るよう、広報してもらいたい。』との発言があった。

(9) 交通事故発生状況と死亡事故の特徴について（令和2年上半期）

県警察から、交通事故発生状況と死亡事故の特徴に関する報告があった。

交通事故発生状況は、発生件数620件、死者数22人、負傷者数746人で、前年同期より発生件数は129件、負傷者数は158人減少したが、死者数は6人増加した。

死亡事故の特徴として、四輪乗車中、昼間、国道での発生が多くなっているとのことであった。

委員から、『発生の傾向と捉え、必要な時に必要な対策を行うよう願う。』との発言があった。